

# 実行委員長あいさつ

## 芸術工学部創立20周年を迎えて

名古屋市立大学芸術工学部は、市立女子短期大学と市立保育短期大学の統合4年制化、及び市立大学教養部の改組にともない1996(平成8)年4月に、人文社会学部と同時に設立されました。1期生を社会に送り出して以降、昨年度までに学部卒業生は1,000名を越えました。設立時に2学科で発足しましたが、現在は3学科に拡大するとともに、大学院博士前・後期課程を教育の核として運営されています。

本年度2015年は、学部設立20年目の節目であり、記念シンポジウムと懇親会の開催、及び記念誌の発行を行うことになりました。卒業生により組織される同窓会「萱光会」と芸術工学部が実行委員会を組織し、記念事業の実施の役割を担うことになりました。こうした共同体制がとれるようになったこと自体20年の積み重ねが体现されたものです。

さて、一方で名古屋市立大学は、昨年大学の基本理念、行動指針となる「大学憲章」を制定し、将来を見据えた行動計画として「名市大未来プラン」を策定しました。これを受け、芸術工学研究科・芸術工学部でも「未来プランー希望と共感のデザイン」を制定しました。大学院における教育研究環境の充実を図るとともに、この地域のデザイン拠点を目指していこうとするものです。

11月21日に開催しました20周年記念シンポジウムでは、設立時にご活躍された先生方の熱い想い、芸術工学部での学びを礎に活躍する卒業生の躍進ぶりが紹介され、参加者の共感を呼びました。20年間の成果を認識するとともに、将来に向けての新たな体制づくりの必要性を知ることになりました。

この記念誌では、過去の足跡を記録するだけでなく、現在の卒業生の活躍ぶりや大学の教育研究活動の紹介を通じて将来の展望へとつながるよう、関係者の交流とさらなる連携を促す媒体となることを目指しました。大学を取り巻く環境が刻々と変わりつつある現代ですが、原点を振り返りつつ新たな方向性の模索が続くはずです。

どうか今後とも皆様のご支援いただきますようお願い申し上げます。

平成28年3月



名古屋市立大学  
大学院芸術工学研究科長  
芸術工学部長

鈴木 賢一



# 芸術工学研究科・芸術工学部 未来プラン

## 「希望と共感のデザイン」

### I

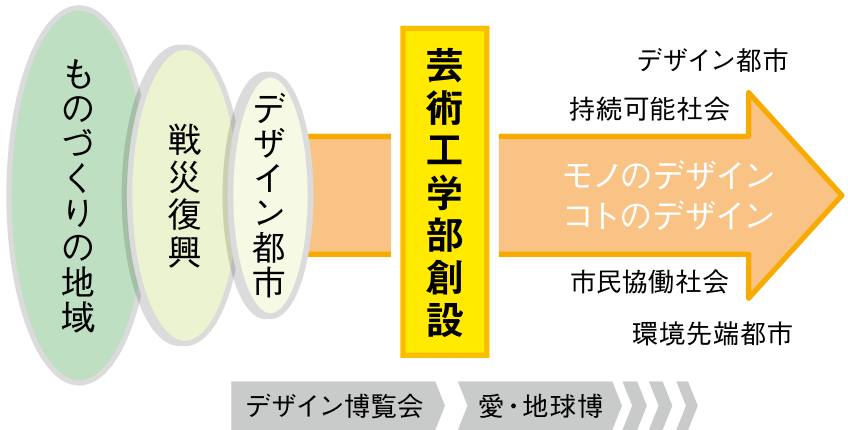
#### 芸術工学部 未来プラン 作成のスタンス

- 1. 設立当初の理念を尊重する**  
「デザイン」をキーワードとする理念を継承し、新しい時代の行動計画を構築します。
- 2. 20年の活動系譜を踏まえる**  
学部創設以来、関係者の積み上げた実績を活かしたプランを策定します。
- 3. 人間を中心とした社会環境のデザイン**  
人間をよく理解し豊かな社会環境のデザインを目指します。
- 4. 社会の変化と要請を踏まえる**  
時代をリードする希望と共感のもてるデザインへの挑戦を行います。
- 5. 特色を活かした内発的發展を目指す**  
少人数による実践教育を特色とするデザイン分野の教育研究体制を整えます。
- 6. 大学の中期目標・計画を見据えたプラン**  
大学の中期目標・計画の実行を見据えた計画を立てます。

### II

#### 芸術工学部の 創設から 未来に向けて

- 1. 芸術工学部の創設の経緯**  
名古屋市の設置した「大学の将来構想に関する懇談会」は、平成5年4月にデザインを都市づくりの理念とする名古屋市に、人間社会にふさわしい環境創造のためのデザイン系研究教育拠点として芸術工学部の設置を答申しました。
- 2. 創設20年の実績**  
「視覚情報デザイン学科」と「生活環境デザイン学科」の2学科でスタートした芸術工学部は、学年進捗とともに大学院博士課程を整備し、2012年には、「情報環境デザイン学科」「産業イノベーションデザイン学科」「建築都市デザイン学科」の3学科体制としました。2014年度末には学部卒業生は1,000人を越えました。
- 3. 芸術工学部、次の15年**  
次の15年間、大学を取り巻く激しい変化を乗り切るためにも、芸術工学の揺るぎない理念に立ち返り、地道で着実な教育研究活動を持続します。表層のデザインではなく、俯瞰的な戦略をもって「コトのデザイン」から「モノのデザイン」まで新しい事柄を切り開くデザインが社会の課題解決に貢献します。





# III

## 芸術工学部の 理念と 教育研究領域

### 芸術工学部の教育研究上の目的

現代社会の解決が困難な諸課題を希望と共感のもてるデザインで解決するため、生活者である人間の特性を理解し構想(Design)から構築(Architecture)までの調和のとれたデザインに関する理論と実践について研究し、芸術のもつ感性と工学で培われた技術を備えたデザイナーを育成することです。

### 芸術工学部の人材育成の目的

数理学の基礎学力と、発想力、造形力を身につけ、デザインの力で社会に貢献することを目指す人材を対象として、「技術」、「感性」、「人間理解」を3本の柱に、幅広い視野と教養、創造性豊かで高度な知識と技術を教育し、地域社会及び国際社会に貢献できる総合デザイナーを育成することです。

### 1. 公立総合大学に設置された学部としての役割

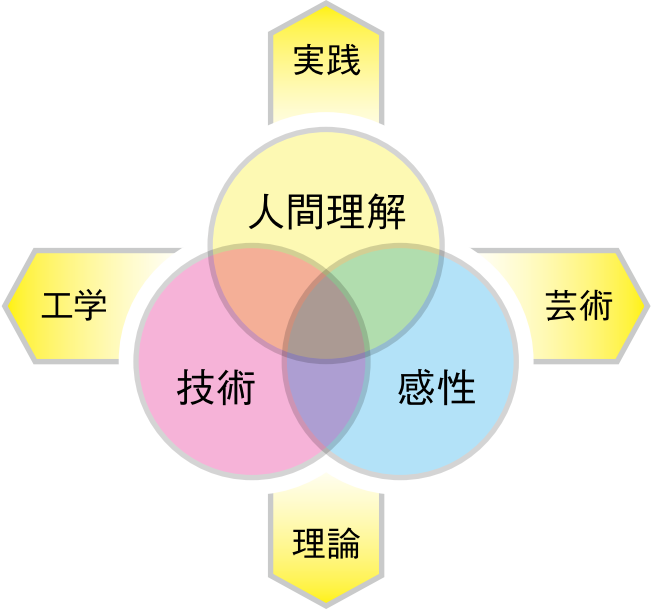
名古屋市立大学は、医療系（医学、薬学、看護の3学部）、文化系（経済、人文社会の2学部）、理学系（システム自然科学センター）を擁する総合大学であり、学際的な芸術工学部の立ち位置を活かすことができます。

### 2. 都市部に立地するキャンパス

芸術工学部は、交通便利な都市部に立地しており、都市内の他の高等教育機関との連携、文化、教育、医療施設など公共機関との連携、市民主体の諸団体等との連携が容易です。

### 3. 少人数による実践的教育

芸術工学部の入学定員は、比較的小規模な高等教育機関で、学生は実技を重視したカリキュラムを通じて、少人数の学習環境で、教員と学生の密接な関係を保っています。



# V

## 芸術工学部 未来プランの 要点

芸術工学部は、学部創設期に示された地域からの要請に対して教育研究に関わる成果を積み上げ、地域における先端的デザイン拠点として基盤を築いてきました。これまでの実績を踏まえさらなる実践を推進するための目標として下記の3点を掲げます。

### 1. 大学院における教育研究の充実

大学院大学として高度な能力を有する研究者、職業人を養成するための、大学院レベルの教育研究環境の充実を目指します。そのために教員学生ともに優秀な人材を集めるとともに、外部資金獲得のための方策を講ずることとします。

### 2. 地域のデザイン拠点

芸術工学という実践的教育研究のプロセスを、外部の諸団体、関係機関と共有することで、地域のデザイン拠点としての機能を果たします。また成果を効果的に外部に発信する、あるいは次世代を担う子どもたちに伝えることで社会貢献を図ります。

### 3. 学際的体制の構築

特定分野における研究教育能力を活かしながら、異分野同士が複合的な課題に取り組むことで、新たな芸術工学の可能性を切り拓くものとします。複数教員による共同研究、学部・大学院の連携など領域をまたぐ相互学習機会を設けます。



VI  
芸術工学部  
未来プランに  
おける  
行動目標と  
達成手段

達成目標 i: 1年以内に実現、ii: 今後3年間（平成29年度末まで）に実現、  
iii: 今後7年間（平成33年度末まで）に実現、iv: 15年後を見すえながら取り組む。

1.教育に関わる未来プラン

- 1) 優秀な学生の獲得
- a. 本学部から本大学院への進学率向上 (i・ii)
  - b. 社会人のリカレント教育の推進 (i・ii)
  - c. 入試改革への対応 (i・ii)
  - d. 高校との連携強化 (iii)

2) 魅力ある大学院教育

- a. 大学院生研究体制の強化 (i・ii)
- b. 学生のキャリア形成・就職支援の充実 (i・ii)
- c. 資格取得への対応 (iv)
- d. 国際交流協定校との交流 (iii)

3) 教育成果の地域への還元

- a. 実習課題への地域課題の導入 (i・ii)
- b. 卒業研究・制作のレベルアップと広報 (iii)
- c. 学生や教員の「発表の場」の設置 (iv)

4) 領域を超えた相互学習の機会

- a. 学部における他領域の学習 (iii)
- b. 学部生と院生の共同活動 (i・ii)
- c. 全学教養教育への参画 (i・ii)

2.研究に関わる未来プラン

1) 研究環境の充実

- a. 外部資金の獲得推進 (i・ii)
- b. 複数教員による共同研究支援 (iii)
- c. キャンパス立地の検討 (iv)

2) 研究の学内・地域連携と還元

- a. キャンパスマスタープラン、施設計画への参画 (iii)
- b. シンクタンク機能の強化 (iii)

3) デザイン研究の拠点化

- a. 芸術工学部修士生の教育への参画 (iii)
- b. 関連学会への研究成果発表強化 (i・ii)
- c. 芸術工学関連機関との連携 (i・ii)

4) 共同研究の促進

- a. 学内における共同研究の推進 (iii)
- b. 企業・自治体との共同研究の推進 (i・ii)
- c. 関連シンクタンクとの共同研究の推進 (iii)

5) 国際化の推進

- a. 国際交流協定校との交流 (iii) [再掲]
- b. 国際機関への参画 (iii)

3. 社会貢献に関わる未来プラン

1) 地域と連携強化

- a. シンクタンク機能の強化 (iii) [再掲]
- b. 企業・自治体との共同研究の推進 (i・ii) [再掲]
- c. 関連シンクタンクとの共同研究の推進 (iii) [再掲]
- d. 実習課題への地域課題の導入 (i・ii) [再掲]

2) 教育の連携支援

- a. 高校との連携強化 (iii) [再掲]
- b. 小中学校と連携したデザイン教育 (i・ii)

3) 広報活動の推進と学術情報の発信

- a. 広報の充実 (i・ii)

4.学部運営に関わる未来プラン

1) 運営の多様化に対する体制の充実

- a. 運営体制の強化 (i・ii)
- b. 多様な幅広い教員構成 (iv)

2) 運営資金の確保

- a. 外部資金の獲得推進 (i・ii) [再掲]
- b. 寄付金の獲得 (iii)

3) 情報発信力の強化

- a. 広報の充実 (i・ii) [再掲]
- b. 同窓会との関係強化 (iii)

VII  
芸術工学部  
未来プランの  
推進に向けて

- a. 未来プラン推進委員会の設置 (i・ii)  
行動計画の推進を図り、達成度の自己評価、プランの修整などを定期的実施するための研究科内自己点検  
委員会に未来プラン推進委員会を設ける
- b. 外部委員によるレビュー (i・ii)  
芸術工学部の運営などを外部委員がレビューする機会を設ける



(左から) 國本研が開発した使いやすく人体を傷つけない新型喉頭鏡 / 溝口研が町並保存の調査研究に携わる愛知県足助の小路 / 高橋研がCGで再現した東日本大震災の被災船

(左から) 藤井研で取り組んでいる有松・鳴海絞におけるデザイン教育 / 名古屋市立工芸高校に協力いただいた栗原研2015年映画作品 / 鈴木研で取り組んでいるホスピタルアート